令和8年度第6回　太田市1％まちづくり会議　議事概要

会議の名称	令和8年度第6回1％まちづくり会議
開催日時	令和8年9月24日（木）　18:00～19:00
開催場所	太田市役所　5階　5A 会議室
出席委員 （代表氏名）	1％まちづくり会議　佐藤　広大 委員長　　他11名

1．開会

2．挨拶

佐藤委員長より挨拶

3．協議事項

（1）採択基準の見直しについて

「備品購入費」

委員長より採決が諮られ、承認された。

委員：これは倉庫も含めた改正か。

事務局：倉庫については特に変更はしない。ここで変更するのは、スポーツ広場の整備等で道具も買えるようにするもの。例えばグラウンドゴルフでいえば、ホールポストなど。

「「講演会」表記の削除について」

委員長より採決が諮られ、承認された。特に意見無し。

「お祭りの規模と基準について」

委員長より採決が諮られ、承認された。特に意見無し。

委員長：事務局案については全て承認されたが、他にあるか。

事務局：現状コミュニティ経費とお弁当代の流用は認めていないが、その他の部分では流用ができる仕組みで運用している。まず、コミュニティ経費とお弁当代がなぜ流用されてこなかったのかだが、コミュニティ経費やお弁当代は出し方によってはたくさん出すことができてしまう部分なので、コミュニティ経費をたくさん申請して、他のところで使おうとする団体が出てくる

かもしれないということから。それを例えば原材料費や備品購入費からコミュニティ経費に持ってくる方に関しては、認めていく運用に変えるという提案。これは基準内であることが前提。

委員：一人当たり 200 円もらえるのだから、スーパー等で価格調査して 10 円、20 円でも多めに申請すればよいのでは。

副委員長：予想していた参加者よりも実際はその倍も来ると、コミュニティ経費は足りなくなると捉えていたが。

事務局：1 人当たりで考えてないところもある。例えばお茶を箱で買う、お菓子を袋で買う等。今回運用を変えるきっかけになったのは、団体から申請だったが、その団体は計算を間違えてしまって足りなかったっていうことだった。そういうこともあるので、運用を広げていくのも検討の余地があると考えた。

委員：予想よりも参加者が増えたということなら、より盛んになるからいいことだと思ったが、間違いと言われると、事情はいろいろあるのだろうが、自分たちでどうにかしてもらうのも考えてよいのでは。事務局の口ぶりから、そんなにない事例だとも思ったので、そのくらいの手間はどうにかして工夫してもらった方が良い。

委員：私のところも予算を組んでいても、足りなくなるときがある。足りなくなったら、コップに分けて出す等調整しながらやっている。むしろ知恵もついてくるし次の勉強にもなっていくと思う。そこで手当をすると、そういう努力がなくなると思う。相談して出てきたものがかえって面白いと思う。

委員：行事が中止になって、用意しておいたお茶等はコミュニティ経費として支出するのか。またそのお茶等の処分はどうするのか。

事務局：払ってしまったものは仕方がないので基準採択金額を上限として払うと伝えている。買ってしまったお茶は団体で消費してもらうことになる

事務局：コミュニティ経費、その他の経費については、今まで通りの運用とする。

事務局：他に、お祭りの補助率を、50％を上限にした方がいいという意見は会議中も何回かいただいていた。

委員：祭りは金額が全くバラバラ。基準の定め方がとても難しい。

委員長：基準がなかなか明確にできないところがある。

副委員長：年々開催が困難になってきているなか、そこを削るのはあまり賛成できない。

委員：でも今年は、お祭りの申請が増えた。結構なことだと思う。

委員長：今回新しく単独行政区でも実施できるようになったので、来年度以降検討でも良いのでは。

委員：祇園祭などの復活した祭りがある。やはり昔からやっているところはしっかり書類も整えてきてくれていて、もうちょっと出してもいいと思う。太田市は山車を引くなどの昔ながらの祭りがあまりない。そういうところには大きな補助をしたい。上限を設けるとそういったところにも出しづらくなってしまう。

委員：お祭りの使用料及び賃借料は現状半分の補助となっているが、2年借りれば 100％分のお

金を出すことになる。買えるものは買った方が良いのでは。おおたまつりでいえば、複数の行政区が一緒になって 1 つのお祭りをやっているから、買って持ち寄れば良いのではないか。買うことに対して補助をすれば、次の年はその分は下がる。大きなステージ等は買うわけにはいかないが。

副委員長：上限についてもそうだが、公平であることと、平等であることは違うと思う。お祭りも年によってやり方も変わってくるので、今範囲を絞っていくのは違うと思う。ゆるやかに町に委ねるのが良いかと。

委員：本町には昔、祇園祭という名目があった。全く違う方向に今は来ている。昔はお祭りを各町内でやった。天皇番があり、1 丁目から 6 丁目までそのメンバーで神輿を担いだ。その年の天皇番は誉に思って子供も頑張った。ところが今はおおたまつりという一つのくくりでやって、イベント会社が舞台を作ってやっている。だから町の人たちがどれだけ力を入れているかはわからない。昔は町内の人たちが金を出し合って、寄付をもらって、あとは町内会から少し出して盛り上げた。今のおおたまつりは、どこもかしこもみんな巻き込んでやらないといけないようなイベントになってしまった感を受ける。だからこれをどう変えていくか。我が町はという考え方でやってくれる人が出てこない限りは難しいかもしれない。昔は実行委員長というと、県議や市議が出てきた。だから、世の中の流れとして、どこかで方向転換してくれることを望むしかない。強引に方向転換させるなら、もう 1 回行政が入る等何かあれば良いが。戻らない限りは今のままただ賑やかになって終わりという形になってしまう。参考になったかわからないが、私は長年生きていてそう感じるので、懐かしい祭りに戻ると嬉しい。

委員長：改めて補助率の上限は定めるのか。

委員：それぞれの地区で事業費も補助率も全部違うから、地区に委ねるしかないのではないか。

委員：きちんとした人がリーダーになっているから、変な使い方はしないと思う。

事務局：お祭り等について、補助率の上限は設けないこととする。

4．その他

【現地視察について】

事務局：現地視察を 10 月 3 日・8日に予定しているが、出欠の変更がある場合は早めにご連絡を。両日動きやすい服装で参加してください。

【おおた未来デザイン会議】

事務局：前回の会議での発言を訂正したい。前回行政マネジメント課に確認したところ、全事業が「要改善」とお伝えしたが、正式には「拡充」が 1 事業、「現行通り」が2事業、「要改善」が7事業であった。1%まちづくり事業は要改善になった。一方で拡充、現行通りも大きいウエイトを占めていた。意見を見てみると、悪いから改善するのではなくて、使いやすいように改善したらどうかという意見だった。いくつか意見を紹介するが、まず一つは市から提案する事

業があったらどうかということ。これについて、休泊行政センター周辺の環境整備はもとは市から提案された。他の部局で要望があれば今後意見を募れるのではないか、改善できるのではないかと考えている。

もう一つは、若い世代がもっと使いやすいように、学生専用のようなものを設けたらどうかという意見。ここについては関東学園大学の方の提案が 2 年ほど前にあったが、最終的に採択はしたが、実施ができなかった。うちの方としては年齢制限をしているわけではないので、現状でも参加可能。ただ若手だと事業の継続が難しい可能性もあると思う。また若手だけに絞るとなると 1%の枠以外でも考えた方がいいと思う。

最後に委員募集の関係。無作為抽出したらどうかという意見があった。ただ、お金もかかるし、やり方を検討しなくてはならない。以上三つを少しずつ進めて行くので、またご意見を頂戴できれば。

委員：昔は委員の中に地区の区長会長さんが 4 人出ていた。

事務局：今回は、2 名の委員が区長会からの推薦。

事務局：考えているのは公募と無作為抽出と区長会からの団体推薦。

副委員長：流れや成り立ちを知らない方ばかりで構成されると、それはどうかとは思う。

事務局：人数の比率も考えて報告をする。

委員：地区等も考えて固まらないようにできると良いと思う。

【成果発表会】

事務局：発表団体と日程が決まったので、スケジュールを確認しておいていただければ。

副委員長：補助金をもらっている団体全て参加していただくくらいの勢いでお願いしたい。

5．閉会